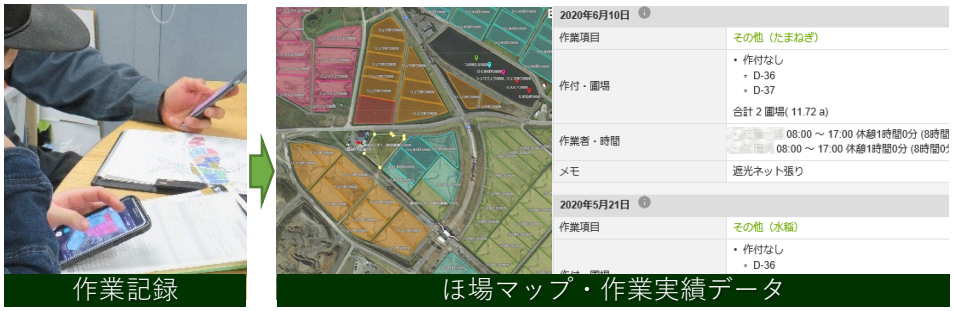
発行　令和３年３月
研究レポート No. 1013　岩手県農業研究センター

生産管理支援システムの導入・活用のポイント

生産管理支援システムは、地図情報を利用し、ほ場情報に関連づけて、ほ場単位で生産・作業・経営情報等の入力・管理が可能で（右図）、近年、様々なシステムが手頃な価格で利用できる状況です。



作業記録　ほ場マップ・作業実績データ

生産管理支援システムを用いた作業・経営管理（例）

大規模経営では、ほ場や従業員、扱う資材や機械等の経営資源が膨大となり、従来の紙ベースや勘と経験に頼るだけでは、適切な作業・生産管理が困難になってきています。こうした経営体では、生産管理支援システムを導入し、情報のデジタル化や見える化、組織内のデータ共有等を図ることが有効ですが、システムの導入・利活用は一部に留まっている状況です。

【１　成果の概要】

生産管理支援システムを導入している県内外の大規模水田作経営（４経営・法人）の取組実態や導入実証の結果から、生産管理支援システムを導入・活用するための５つのポイントを導入過程に順じて下表のとおりとめました。

システム導入・活用のポイントと取組事項	
(1) 導入目的の明確化と組織内共有	1) 生産・経営管理上の**現状・課題の整理** 2) システムの**導入目的の明確化**（情報共有・進行管理・労働時間やコスト分析等） 3) 導入目的に応じたシステムの利用範囲等を**組織内で共有**
(2) 導入・利用目的に対応できるシステム選定	1) 導入候補の機能・価格等の**情報収集**（試用も含め） 2) **導入目的に合う機能**を有しているシステムか確認 3) ユーザビリティ（**操作性・効率性・わかりやすさ**）
(3) システムの利用・チェック体制の構築	1) 活用は**正しい入力が継続**されることが大前提 2) システム利用の**意義や必要性の理解・醸成**（具体的な利活用方法の提示等で入力継続に向けた意識付け） 3) 入力状況をチェックする**責任者の設置・明確化**（誤りや入力漏れ等を確認し、修正を指示）
(4) 入力を継続するためのデータ設定・工夫	1) 組織の特徴や**作業実態に合った入力項目の設定**、**入力ルール**の明確化 （従業員等が**入力しやすいマスタ設定（作業項目・ほ場・機械等）**、**いつ・誰が・実績をどのように入力**するか等） 2) システムの**通常機能では入力しにくい情報**の設定方法の工夫 （**ほ場単位で行わない作業（育苗・調製作業等）**は、作業場を「ほ場」として設定・入力する等）
(5) データ集計・分析体制の構築（人材確保・育成）	1) **集計・分析担当者**の設置・明確化 2) 集計・分析に関する**資質向上、分析方法**の習得（自動集計機能やデータ出力機能を活用した**省力化**、**集計手順・フォーム**等の提案や**資質向上支援**）

【２　効　　果】生産管理支援システムの導入検討や導入後の利活用の際の参考となります。

【３　留意事項】詳細は、別途作成している試験研究成果書やマニュアルを参照してください。

【４　適応対象】生産管理・経営改善支援等を行う普及センター・農協担当者等

担当研究室　企画管理部　農業経営研究室
〒024-0003　岩手県北上市成田 20-1　TEL. 0197-68-4404　FAX. 0197-68-2361